

	発行者の略号	東書	大日本
	書名	新しい科学	理科の世界
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	教科書内で対話的な学習のモデルを効果的に見せることで、主体的対話的な学習ができるような工夫がされている。	5つのステップ（問題をみつけよう→計画を立てよう→結果から考えよう→振り返ろう→話し合おう）で進めている工夫がある。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①写真や図表を用いて解説し、知識の定着に役立てている。 ②課題に対する結論を自分の言葉でまとめるところがあり、各章末に結論の例があるので、確認することができる。 ③すべての節に、学んだことを活用する場面があり、単元末に活用型の問題がある。科学の本棚で3冊の本を紹介しており、インターネットだけでなく、本からも詳しいことを学習できるような工夫がある。	①写真や図表を用いて解説し、知識の定着に役立てている。 ②学習の中に仮説や考察の場面を設けて、考える力の育成を図っている。 ③「くらしの中の理科」や「Science Press」と題して発展的な内容も含め、学習した内容が今後の生活の中で生きるよう促されている。
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	適切である。	適切である。
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①自分や他者への考えを検討・改善する場面や、他者と対話する場面が掲載されている。 ②学習内容がどの部分に関連するかを、引き出し線で結んでいる。 ③自然災害について、社会科の地理分野でも学習することが示されている。 ④自分や他者の考えを検討・改善する場面や、他者と対話する場面が多く掲載されている。 ④安山岩が城の石垣に使われていることその他、岩石がそれぞれの地域で活用され、文化となっている場合があることを取り上げている。 ⑤おおむねよい。 ⑥「これまでに学んだこと」で既習事項が掲載されている。また、本文の関係するところに引き出し線で示している。 ⑦「世界につながる科学」で実際に科学の分野で働く人の声などが記載されている。 ⑧様々な事例を写真で紹介して、分かりやすくしている。 ⑨「科学で調べていこう」や「科学の歴史」が、漫画でわかりやすい。	①結果の見方、考察のポイントが示されていて、思考力、判断力を必要とすることで主体的な活動ができるよう工夫されている。「結果から考えよう」では対話的な活動が促されている。 ②「つながる」のコーナーで万葉集にある植物を紹介し、国語や歴史に絡めている。 ③発表するための話し合いや提示の仕方を検討するよう促している。 ④安山岩が城の石垣に使われていることその他、岩石がそれぞれの地域で活用され、文化となっている場合があることを取り上げている。小田原城の石垣の写真が使われている。 ⑤おおむねよい。 ⑥発展的な学習の数が、学年が上がるほど多くなっている。（1年19、2年28、3年39） ⑦情報モラルに関する読み物の項目がある。 ⑧日本各地の標準的な事例を写真で紹介して、分かりやすくしている。 ⑨結果や観察の例がページをめくらないと見られないようになっている。
	(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①適切である。 ②40mm縦が長い。A4スリム判で探究の過程が見やすい。 ③カラーユニバーサルデザインの観点から、グラフは色と線の形を変えている。 ③巻末に単位と有効数字の解説が書かれている。	①適切である。 ②ノートと同じサイズで持ち運びやすい。 ③生徒がデジタルコンテンツを活用しやすいようにマークで目印がしてある。
イ 教科・種目別の観点	① 観察、実験などは、3年間を通じて、科学的に探究する力の育成が図られるような工夫や配慮がなされているか。	①レポートの書き方がわかりやすく説明してある。 ①「科学で調べていこう」という見出しで、「問題発見（課題）→仮説→構想（調べ方）→実験観察→結果→考察（話し合い）→結論→発表（表現）→振り返り→活用」という学習の流れが提示されている。論議の仕方、発表の仕方が初めに提示されている。	①「思い出そう」から過去の学びとの関連性がわかる工夫が内容ごとにされている。 ①各単元末に、探求的活動の項目がある。
	② 観察、実験などは、日常生活や社会とのかかわりの中で、生徒が理科の有用性を実感したり、自らの力で知識を獲得したり、また、それらを表現したりして、理解を深めて体系化していくような工夫や配慮がなされているか。	②生物のグループ分けを自分たちで考える工夫や、その後獲得した知識から別の生物がどこに分類されるか等の理解を深める問題提起がされている。また、これからの環境問題についても課題提起がある。 ②「つながる科学」という読み物にして、学習内容が生活の中のどのような場面で生かされているかが分かるよう示されている。	②「くらしの中の理科」として、学習内容が実生活とどのような関連があるかを学習できるように工夫してある。 例) 1年 津波警報、河岸段丘、ジオパーク、鉱物などが「くらしの中の理科」として扱われている。小田原城の石垣に地元の岩石が使われていることを扱っている。
	③ 原理や法則の理解を深めるためのものづくりや、継続的な観察や季節を変えての定点観測など、体験的な学習活動の充実が図られるような工夫や配慮がなされているか。	③遺伝子やDNAに関する研究・技術が日常とどのように関わっているかを調べて発表する活動になっている。	③「やってみよう」は、既習学習を活かして自分で実験できるものが多い。

	発行者の略号	学図	教出
	書名	中学校科学	自然の探究 中学理科
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	実験・観察に多くのページを割いている。各章の始めと終わりに「Can-Do List」と称して、この章での学び方や自己チェックができるように解説されている。	教科書のはじめに観察・実験において課題、仮説、計画、観察・実験、考察、結論それぞれの学習の仕方の解説がなされている。
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①教科書の最初に「理科のトリセツ」で、その単元を学ぶ理由が解説されている。仕事や生活につながるよう細かく記載されている。 ②全時間で、この課題の見方・考え方を記載している。また、仮説、ふりかえりが明記されている。 ③単元の最後に「学びを日常にいかしたら」とあり、学習した内容が今後の生活の中で生きるよう促されている。	①レポートの書き方、探究の仕方の説明が丁寧。 ②学習前と学習後の考えの変化を比較することができる。 ③「ハローサイエンス」と題して発展的な内容も含め、学習した内容が今後の生活の中で生きるよう促されている。 例) 1年 地質年代の一つである「チバニアン」を扱っている。「温泉と断層」の意外な関係を解説して興味関心を持たせている。
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	適切である。	適切である。
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①「理科のトリセツ」で主体的・対話的で深い学びの実践の仕方の説明がある。教科書の巻末にホワイトボードがあり、話し合いで活用できるようになっている。 ②自然災害や自然の恵みについて、社会科の地理分野でも学習することが示されている。 ③話し合いが必要な場面には人のイラストで話し合っている例が示されていて、どのように意見を言えばよいかを分かりやすく示している。 ④おおむねよい。 ⑤欄外に「これまで学んだこと」として何年生で学習したか分かるように示されている。 ⑥QRコードを活用したプログラミング教材がある。教科書にフローチャートなどが紹介されている。 ⑦小数などのつまずきも復習されている。 ⑧人のイラストを使用して、丁寧にヒントを出している ⑨探求の課程が丁寧であり、すべての探究にCan-Do Listがある。 ⑩図や写真の活用により理解がしやすくなっている。	①生徒キャラクターが理科的な見方・考え方を働かせることができるように、展開に沿った適切な発言や素朴概念を織り込んだ発言をしている。 ②ブリッジのマークで、他教科で習う内容を示している。 ③自分の考えを伝え合ったり、分析解釈科学的な概念を使用して考えたり説明したり言語活動を充実させる配慮が見られる ④おおむねよい。 ⑤「おさらい」として学びのあしあとが見られる。 ⑥ICT化の対応をもって充実を図っている。 ⑦「理科で使う算数・数学」として苦手な生徒にも丁寧にフォローしている。 ⑧各学年モデルカードがついている。 ⑨図や写真の活用により理解がしやすくなっている。
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮されているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①適切である。 ②軽量化と内容のスリム化を図っている。 ③アイデアボードの活用による工夫がある。 ④コラム・問題などがQRコード化して、取り組みやすい工夫が見られる。 ⑤学習場面ごとに決まったピクトグラムを使用して、分かりやすくしている。	①適切である。 ②横にあった注釈がなくなり、縦方向のレイアウトになり、視点移動がスムーズ。 ③重要語句が朱書きになっている。	
イ 教科・種目別の観点	① 観察、実験などは、3年間を通じて、科学的に探究する力の育成が図られるような工夫や配慮がなされているか。	①Can-Do List（自己チェック）で何ができるようになったかを章ごとに確認することができる。 ①「理科のトリセツ」という見出しで、教科書の初めに探究の方法を示している。「気づき→課題設定→仮説→計画→実験・観察→結果→考察→振り返り」という学習の流れが提示されている。レポートの書き方、発表の仕方の解説がある。主体的、対話的、深い学びについての説明がある。	①探求を進めやすいレイアウト 課題→仮説→計画→実験→考察→結論がわかりやすく体系化されている。 ①レポートは書き方例があり、イメージしながら書ける。また、レポートの書き方の中の「誤差の取り扱い」、「有効数字」、「グラフの作り方」の解説が丁寧である。
	② 観察、実験などは、日常生活や社会とのかかわりの中で、生徒が理科の有用性を実感したり、自らの力で知識を獲得したり、また、それらを表現したりして、理解を深めて体系化していくような工夫や配慮がなされているか。	②「サイエンスカフェ」の中でいろいろな仕事でも観察してスケッチをする大切さが書かれて、学習内容の有用性が配慮されている。また、学習内容を地域に反映させて学習するように促している。	②「学習前の私」で、日常生活に何気なくやっていることは「なぜ」の疑問の投げかけがある。
	③ 原理や法則の理解を深めるためのものづくりや、継続的な観察や季節を変えての定点観測など、体験的な学習活動の充実が図られるような工夫や配慮がなされているか。	③モノづくりを通して体験的な学習活動の充実ができる。 ③説明文の絵がわかりやすく、自分の経験と比較してイメージしやすい。	③生徒が、自主的に体験的な学習活動の充実が図れる「やってみよう」や「チャレンジ」があり、学習した内容をいかせる。

	発行者の略号	啓林館	
	書名	未来へひろがるサイエンス	
ア 教科・種目に共通な観点	①編集の趣旨と工夫	写真や図は興味関心を引くものを使用している。	
	(7) 教育基本法、学校教育法及び学習指導要領との関連 「教育基本法（第1条、第2条）及び学校教育法（第49条・第30条2項）に基づき、学習指導要領において示された「資質・能力」の3つの柱で整理された各教科の目標を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 生きて働く「知識・技能」を習得するための工夫や配慮 ② 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成を図るための工夫や配慮 ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養するための工夫や配慮	①写真や図表を用いて解説し、知識の定着に役立てている。 ②学習の中に仮説や考察の場面を設けて、考える力の育成を図っている。 ③「科学コラム」で「防災減災ラボ」「お料理ラボ」のような読み物を掲載し、学びを人生や社会に生かせる工夫がされている。	
	(4) 市町の方針との関連 ① 小田原市 ②箱根町 ③真鶴町 ④湯河原町	適切である。	
	(ウ) 内容と構成 ○ 中学校学習指導要領（平成29年告示）の改訂の要点を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ① 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学習活動に資する工夫や配慮 ② 他教科との関連等、カリキュラム・マネジメントに資する工夫や配慮 ○ 学習指導要領の改訂における教育内容の主な改善事項等を踏まえた工夫や配慮がなされているか。 ③ 言語能力の確実な育成 ④ 伝統や文化に関する教育の充実 ⑤ 体験活動の充実 ⑥ 学校段階間の円滑な接続 ⑦ 情報活用能力の育成 ⑧ 生徒の学習上の困難さに応じた工夫 ⑨ 生徒にとって分かりやすく理解が深まるような構成上の工夫や配慮がなされているか。	①全学年 「探Qシート」に主体的、対話的に課題解決するような学習内容を盛り込んでいる。科学の持つ不思議を導入で強調し、興味関心を引いている。 ②関連のある教科を横断的に紹介している。 ③動物園や水族館の展示方法が自然のすがたに近い動物をみせるためのものになっていることで、理科の学習内容が社会に活用されていることを示している。 ③キャラクターの対話に探求の足場となるヒントが示されていて主体的な思考の助けとなる。 ⑤おおむねよい。 ⑥「つながる学び」で既習事項を確認できる。発展で高校へのつながりもわかる。 ⑦QRコードからデジタル教材にリンクしており、家庭での自主的な学習などを含め、意欲を高める工夫がしてある。 ⑦単元の内容が、イメージできる動画が単元の最初にある。 ⑧「サイエンス資料」でかけ算や割り算、百分率などのやり方を詳しく説明している。 ⑨例えば国内4カ所の砂浜の写真と比較し、その違いを考察するなど、写真から課題が見つけれられるように工夫されている。火山噴火の写真と噴火後の山体の写真を並べて関連性が分かるようにしてある。	
(イ) 分量・装丁・表記等 ① 各内容の分量とその配分は適切であるか。 ② 体裁がよく、生徒が使いやすいような工夫や配慮がなされているか。 ③ 文章表現や漢字・用語・記号・計量単位・図版等、生徒が理解しやすいような工夫や配慮がなされているか。	①適切である。 ②紙面が横に広く、写真や図画大きくきれいにレイアウトされている。 ③図などを教科書だけでなく、QRコードも活用して、より多くの図版を見せる工夫がされている。		
イ 教科・種目別の観点	① 観察、実験などは、3年間を通じて、科学的に探究する力の育成が図られるような工夫や配慮がなされているか。	①「この教科書の使い方」という見出しで、「学習の導入→学習課題→計画や予想などの活動→観察・実験→結果→考察→まとめ→学習の終わりに」という学習の流れが提示されている。論議の仕方、発表の仕方が教科書の初めに提示されている。	
	② 観察、実験などは、日常生活や社会とのかかわりの中で、生徒が理科の有用性を実感したり、自らの力で知識を獲得したり、また、それらを表現したりして、理解を深めて体系化していくような工夫や配慮がなされているか。	②様々な“ラボ”という表現を元にして、日常生活と理科の関わりの関連づけが行いやすくなる工夫がされている。 ②小田原市の地層の写真が使われている。どこの地層で、どうやってできたかを考えるきっかけとなる。	
	③ 原理や法則の理解を深めるためのものづくりや、継続的な観察や季節を変えての定点観測など、体験的な学習活動の充実が図られるような工夫や配慮がなされているか。	③「探Q実験」という見出しで、単元に1カ所、特に探究的な学習に取り組めるよう促している。	